



急変の前兆！ キラースイムptom

キラースイムptomとは、急変や死に結びつく可能性のある危険な兆候のことで、呼吸の異常、ショック(末梢循環の異常)、外見と意識の異常などに大別されます。

キラースイムptomに気づいたら！
—迅速評価で観察すべきポイントとその評価—



気道

外見・意識状態

呼吸音は聞こえるか？

呼吸数の異常はないか？

呼吸に伴う空気の出入りは感じるか？

努力呼吸をしているか？
呼吸補助筋を使って呼吸している？

胸郭のうごきはあるか？

酸素投与下で
SPO2:90%以下？

苦悶様の表情・意識レベルの低下(呼びかけに対し反応鈍い)？
呂律が回らない・意識内容の変化(もうろうとしている、興奮状態、不安など)



患者に一番身近な看護師だからこそ生命の危険につながる兆候を早期に発見し、重篤化する前の早期対処がおこなえるのです★

循環

ショックの5徴候

- ・蒼白
- ・虚脱
- ・冷汗
- ・脈拍触知不可能
- ・頻呼吸



抗がん剤・曝露対策

抗がん剤投与患者さん、ご家族(介護者)の安全管理について

抗がん剤投与患者、ご家族(介護者)の安全管理について

抗がん剤は投与後しばらくの間、尿や便に残ります。便や尿などに直接触れても健康に害を及ぼすようなことはまずありません。できる範囲で結構ですので以下の対策をお取りください。

患者・ご家族へ曝露対策をお知らせする事は必要性を感じながらも、否定的に捉えられる場合もあり病院としての取り組みが置き去りにされていました。しかし、通院での化学療法が主流になり、患者や介護者の曝露対策について『知らせる』ことが必要で、化学療法委員会と協議し、**薬剤師のレジメン説明の際に説明書と共に説明文書をお渡しすること**になりました。

<対策を取る期間について>

- ・抗がん剤(注射)投与後2日間対策をお取りください。3日目以降は特別な対策は必要ありません。
- ・内服の抗がん剤等で連日服用するお薬に関しては、最終内服日から2日後まで下記の対策をお取りください。
- ・下記の抗がん剤を投与されている場合は7日間対策をお取りください。
 - ・ファルモルピシン、シスプラチン、ゲムタシタビン、ドセタキセル、アドリアシン、エンドキサン、オシロビン、エトホソド、フレオ

<日常生活の注意>

- ・男性の方も、便座にこしかけて排尿してください。
- ・尿がこぼれた場合は、トイレトペーパーできれいにふきとってトイレに流してください。
- ・使用後のトイレは、トイレのふたをして水を流してください。このとき水を2回流したほうがよいでしょう。
- ・出血した時はトイレトペーパーできれいにふきとりトイレに流してください。
- ・トイレの後や血液が手に付いた場合は石鹸で手をよく洗ってください。

<排泄物(尿、便)、嘔吐物についての注意>

- ・ストーマ用品や、オムツなどの処理は手袋を着用して行ってください。二重にしたビニール袋に入れ、密閉して一般ごみとして廃棄してください。手袋を外したあと手も洗ってください。
- ・排泄物が皮膚についたら、直ちに水道水で十分に洗い流し、石鹸で洗ってください。
- ・排泄物、嘔吐物の付着部位に異常が現れられず診察を受けてください。

<排泄物、嘔吐物が付着した器具、衣類等の取り扱い>

- ・排泄物、嘔吐物が付着した器具は直接洗濯機に入れ、通常の洗剤を用いて2度洗濯してください。このとき単独で洗濯し、その他の洗濯物とは分けて洗うようにしてください。
- ・汗は通常の量では対策は必要ありませんが、大量の汗をかいている場合は、上記の対策をお取りいただくほうがよいでしょう。

対策を取る期間「どうして2日間？」
一般的に薬剤の大半は48時間以内に排泄されるから…

当院で頻りに使用されるファルモルピシン®、シスプラチン®などは7日間尿中に残留する為、2日間以上の対策が必要となる

「どうして便座？」
立った状態で排尿すると小便器周囲に飛び散りが発生する

「蓋をして2回流するのは？」
現在はトイレの1回の水量が少い為2回流が推奨されています
また、目に見えない噴霧状態で飛び散りが発生する為、蓋を開けて流します

***患者の通常のリネン類は特別な取り扱いはありません**

インフューザーポンプが変更になりました
<特徴>

- ・ポケットに入る薄型
- ・ポンプ内に結露が発生



***フィルターは濡らさないでネ!**

汚染したリネン類や吐物、排泄物の取り扱い時には手袋を着用するように伝えましょう

尿が床に飛び散ったりこぼしてしまったりしたら床を拭く、飛び散らないような方法で排泄する。排泄物や吐物で衣服や寝具を汚染があれば、手袋をして1度水洗いをした上で洗濯する(2度洗い)、などの行為はエチケットで日頃から行っている行為だと思います。抗がん剤投与患者だからと言って特別な行為を必要としている訳ではありません。患者の心情を配慮して、患者の生活状況内で可能な範囲で対策を取っていただくように説明をお願いします m(_)_m